

行政視察・政務活動・議員研修) 報告書

平成30年11月28日

白石市議会議長 志村 新一郎 殿

議員氏名 佐藤 龍彦

下記のとおり行いましたので報告いたします。

期 間	平成30年11月13日(火) ～ 11月14日(水)	
調査・研修先	1 愛知県一宮市 2 静岡県藤枝市	
調査事項 (研修事項)	1 ICT技術を活用したプログラミング教育等の取り組みについて 2 “健康・予防日本一のまち藤枝”づくりに向けた「藤枝プロジェクト」について	
対応者・講師等	1 議会事務局次長 山田 均氏 1 議会事務局議事調査課長 脇田佳彦氏 1 議会事務局調査グループ課長補佐 高橋篤人氏 1 教育委員会教育文化部学校教育課指導主事 池山清二氏 2 議会事務局次長 森谷浩男氏 2 議会事務局 中司里香氏 2 健康福祉部健やか推進局健康企画課長 平澤孝之氏	
	1、愛知県一宮市 ICT技術を活用したプログラミング教育等の取り組みについて ・面積 113.82km ² ・人口 2018年4月1日現在 385,777人 ・小学校 42校(児童数 21,675人) ・中学校 19校(生徒数 10,855人) [一宮市学校教育推進プラン] ・めざす子ども像を実現するための5つのプラン ○未来に生きる力育成プラン ・情報社会の進展に主体的に対応できる力を育てる ・情報モラル教育の充実を図る ・必要な情報を選択し、活用する能力の育成を図る ○プラン実現のための施策 (1) 児童生徒・保護者の情報モラル向上のための啓発活動推進校	



	<p>[平成30年度 小中20校] (情報モラルリーフレットの作成・配布、情報モラル指導の実施)</p> <p>(2) 「論理的思考力を高めるプログラミング教育」に関する研究 [指定小中学校] (魅力あふれる学校づくり推進事業)</p> <p>(3) 「Pepper社会貢献プログラム」[指定小中学校]</p> <p>(4) わくわくプログラミング教室の開催</p> <p>(5) 情報教育研究委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報教育に関わる学習活動のカリキュラムの作成 ・プログラミング教育、タブレットPCの効果的な事例研究 ・児童用・教師用の「まなびリンク」の充実 <p>学校が共通に取り組む目標</p> <p>○児童生徒に情報モラルを身につけさせるとともに、必要な情報を適切に活用する学習をすすめる。</p> <p>◎ICTを活用した教育について</p> <p>○一宮市立小中学校のICT環境整備</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 教育ネットワーク (H16年度～) ② 学校現場では <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="padding-right: 20px;">[校務用パソコン]</td> <td>教職員一人一台配備</td> </tr> <tr> <td>[普通教室]</td> <td>実物投影機 (OHC)、プロジェクタ 教育用PC、デジタル教科書</td> </tr> <tr> <td>[パソコン室]</td> <td>40台の児童・生徒用ノート型PC</td> </tr> </table> <p>○小学校での情報教育 (総合的な学習)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1・2年生 (年間5時間程度) →お絵かきソフトの利用など 3・4年生 (年間5時間程度) →ワープロソフトの利用など 5・6年生 (年間10時間程度) →ワープロソフトやプレゼンテーションソフトの利用など <p>全学年 (年間2時間程度) →情報モラル</p> <p>○中学校での情報教育 (3年生技術科)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1年生 (年間4時間) →コンピュータと情報通信ネットワーク (4時間) 3年生 (年間18時間) →デジタル作品の設計・製作 (9時間) プログラムによる計測・制御 (7時間) 情報に関する技術の評価・活用 (2時間) <p>○教員のICT活用研修</p> <p>例) H29年度 初任者研修 (8/1)</p>	[校務用パソコン]	教職員一人一台配備	[普通教室]	実物投影機 (OHC)、プロジェクタ 教育用PC、デジタル教科書	[パソコン室]	40台の児童・生徒用ノート型PC
[校務用パソコン]	教職員一人一台配備						
[普通教室]	実物投影機 (OHC)、プロジェクタ 教育用PC、デジタル教科書						
[パソコン室]	40台の児童・生徒用ノート型PC						

- 実物投影机やデジタル教科書の活用
- 夏季集中研修（8/6、7）
 - プレゼンテーションソフトの活用法
 - 表計算ソフトの活用法
 - プログラミング教育
 - 情報モラル教育
- 冬季研修（12/26）
 - 研究校に学ぶプログラミング教育
- ◎プログラミング教育について
 - 一宮市独自の研究指定（H28年度～）
 - ・小学校2校、中学校1校にタブレット（各校10台）を配置して実施（H28・H29年度の2年指定）
 - 文部科学省の研究指定（H28・29年度）
 - ・次世代の教育情報化推進事業（IE-School）
 - ・教科横断的な情報活用能力の育成のためのカリキュラム・マネジメント
 - Pepper社会貢献プログラムスクールチャレンジ
 - ・Pepperを活用して、小中学校（27校）でプログラミング教育を実施
 - わくわくプログラミング教室
 - ・小学5・6年生を対象とした希望制のプログラミング教室
 - Scratch（スクラッチ）
 - Pepper（ペッパー）
 - Pepper社会貢献プログラム（ソフトバンク）
 - [期間] 平成29年度から平成31年度までの3年間
 - [導入校数] 小学校15校・中学校12校
 - [導入台数] 1校あたり7～8台
 - ① 新学習指導要領×Pepperプログラミング
 - ② 対話的な学び×Pepperプログラミング
 - ③ 深い学び×Pepperプログラミング
 - ④ 直感的にプログラミングできる専用ツール
- ◎プログラミング成果発表会
 - 小学生、中学生、部活の3部門にそれぞれテーマがあり、11月までに各自自治体の代表チームを選出、12月にソフトバンクで最終選考、2月に全国大会が開催される。
- 情報モラル教育について

- 地方創生事業による情報モラル教育の早期実施（平成28年度～）
 - ・4か年計画で、「児童生徒・保護者の情報モラル向上のための啓発活動推進校」に全小中学校を指定
- 情報モラルリーフレットの配布
 - ・毎年、夏休み前に小学5年生に情報モラルのリーフレットを配布
 - ・リーフレットを活用した授業指導案例も配信
- 情報モラルに関する教員研修の実施
 - ・夏季集中研修で情報モラル教育に関する研修を実施
(教職経験2～10年目の間に必ず受ける研修として位置づける)

「考察」

一宮市は、ソフトバンクの社会貢献プログラム「スクールチャレンジ」に参加し、Pepperを活用してのプログラミング教育を行っているとのこと。視察では、実際のプログラミングの授業を見学することができなかったのは残念だった。また、2020年からのプログラミング教育の必修化に伴い教員の負担軽減を考える必要もあると感じた。情報モラル教育では、近年スマートフォン等の普及により小中学生がインターネット上でのトラブルに巻き込まれる事件も増加している。本市も児童・生徒がトラブルに巻き込まれないようにするために保護者も含め情報モラル教育が重要と感じた。

静岡県藤枝市

“健康・予防日本一のまち藤枝” づくりに向けた
「ふじえだプロジェクト」について

平成30年9月末日現在

人口 145,652人

世帯数 59,098世帯

平均年齢 46.86歳

高齢化率 29.0歳

面積 194.04km²

- 健康・予防日本一ふじえだ推進体制
 - ・市民・事業者・行政が一体となって推進
 - ・守る健康（命を守る）→発症予防・重症化予防・地域保健・医療
 - ・創る健康（命を輝かせる）→豊かなライフスタイル
- 健康寿命の延伸
ポピュレーションアプローチ

◎守る健康

○藤枝市民の健康関心度

藤枝市民は特定健康診査受診率が高く、静岡県内で人口10万以上の市の部で第1位。メタボ率も静岡県は全国2位の少なさで、藤枝市は中でもトップクラスの水準となっている。また、がん検診受診率も高く、全国の10万人以上の283市中、大腸9位、肺11位、子宮12位。

○地域から1,000人の保健委員

[特徴] 開始から50年、自治会の枠組みで30年

- ・市内12支部、計1,000人体制で活動
- ・自治会長、町内会長はあて職
- ・(メリット) 底辺の拡大
- ・(デメリット) 継続性の確保
- ・女性保健委員は60～80世帯に1人

○自治会組織を基盤に、市民の2万人が経験者

◎創る健康

○健康・予防日本一ふじえだプロジェクト

○歩いて健康「日本全国バーチャルの旅」

(継続したウォーキングを支援)

→東海道を完歩したら奥の細道コースなど4コースがあり、全国のバーチャルの旅へご案内

○ふじえだ健康スポット20選

(地域の宝を健康づくりに活用)

→元気ふじえだ健康ウォーキングの実施

○ふじえだ健康マイレージ

(日々の健康行動の実践と定着)

→健康行動でポイントを貯め、2週間以上実践

- ・対象は、18歳以上の市内在住・在勤・在学者
- ・日々の行動 運動・食事・休養・歯・体重計測の5項目・計80点
- ・ボーナス 健(検)診の受診・禁煙・社会参加 ・計20点
- ・日々の行動(80点) + ボーナスポイント(20点) = 100点
- ・静岡県とも連携し、商店などに協力依頼、協力店になってもらいカードを提示すると割引やサービス特典の提供を受けられる。
- ・健康マイレージWebシステム(H25.2月スタート)

◎健康マイレージの検証

概ね5年を経過 H30年3月31日(平成29年度末)

[実績]

達成者： 1, 993人（紙版1, 200人、Web版791人）
 リピート率： 53.4%（参加者2, 620人）
 Web登録： 1, 418人（未達成者627人）

[成果]

- ・企業や店舗の協力でインセンティブが持続（公費投入無）
- ・告知やアンケートの経費を節減（Web版で一斉メール）
- ・ユニークな取り組みが全国から注目（シティプロモーション）

[課題]

- ・短いチャレンジ期間後の健康行動の定着
- ・もっと簡便（手間不要）で客観的なデータの取得
- ・科学的な効果の測定（手法の導入）

⇒新たな取組の必要性

◎楽しく歩いて健康アプリ「あるくら」の開発

- ・ICTの活用により30代から50代をメインターゲットに

◎「賢く食べて健康」～C級グルメグランプリ

- ・低カロリー（Calorie）でヘルシー（C）だけど美味しい（C）
 をコンセプトとしたレシピグランプリ大会を開催

◎野菜を食べて健康フェア

- ・食育の観点から、包括連携協定を締結したカゴメ（株）と連携し、日々の食事での野菜の摂取不足を解消する取り組み

◎ふじえだまるごと健康経営プロジェクト

- ・真の健康都市の実現
 （幸福度・QOL（生活の質）が高く、こころが満たされた市民が住むまち）
- ・民間のノウハウや知見を活用

◎民間活力を導入 包括連携協定を締結

○平成28年7月 大塚製菓（株）と締結

[協定名] 健康・スポーツ施策等に関する包括連携協定

○平成29年11月 カゴメ（株）と締結

[協定名] 健康・食育施策等に関する包括連携協定

○藤枝商工会議所、岡部町商工会、全国健康保険協会静岡支部と締結

[協定名]「健康・予防日本一」に向けた健康経営推進に関する連携協定

[考察]

藤枝市は、健康・予防日本一のまち藤枝づくりのための「藤枝プロジェクト」を推進している。この事業は市民、事業所、行政が一体となって実行しているとのこと。また、特定健康診査受診率やがんの検診受診率も高

いことから、日ごろからの藤枝市民の健康意識の高さが感じられた。また、近年は、新たな取り組みとして「歩いて健康バーチャルの旅」「ふじえだ健康マイレージ」など市民参加型の健康づくり運動も展開しているとのこと。

「ふじえだ健康マイレージ」については、静岡県との協働事業とのことで、地元企業や商店に協力を依頼して、割引・サービス特典の提供などがあり、参加者にとってもお得感のある事業となっている。協力店も1,000店を超えているとのこと。本市においては、特定健康診査受診率の低さなどがたびたび指摘されているが、まずは、市民の健康意識向上のための取り組みが必要と考える。そのきっかけとして本市も「健康マイレージ」を導入してはどうかと考える。(例えば、年間を通して市内各所で行われるイベントに足を運んだ場合にポイントがもらえるなど、市民の外出の機会を増やす取り組み)市民の健康関心度を高めるきっかけとなり、健康寿命の延伸を図ることができるのではないかと思う。